

桜中だより

長崎市立
桜馬場中学校
校長 大塚 潤

2学期をいっかひと締めくくろう

次期生徒会の組織づくりが進む

でしょうか。

『「行事」「部活」に、「授業」に、「進路選択」に、打ち込み、粘り、欲を出した4ヶ月間にしよう」と呼びかけてスタートした今学期も後1週間。学期始めにたてたそれぞれの目標はどれくらい達成できた

次期生徒会投票(定数5名)に16名もの立候補があり、生徒達の関心の高さが示された形となりました。1年7名、2年9名が立候補し、どの役職も

激戦となりました。

5日間の選挙運動の後、1日(木)に体育館で立会い演説会が開催され、それぞれが、本校をよくしたいという熱い思いを語りました。

生徒会役員選挙は、生徒



頼りにしています。一緒に頑張ろう。

会則及び生徒会役員選挙規定に基づいて実施するものですが、あくまでも学校の教育活動の一環として位置づけています。

民主主義の原理である選挙についての関心を高め、生徒会活動においては、将来の自治活動のよりよい在り方について考えを深めようというものです。投票の結果、次の生徒達が当選しました。

会長

(2年4組)

副会長

(2年1組)

副会長

(2年4組)

書記

(2年4組)

書記

(1年1組)

惜しくも当選にならなかった立候補者についても、志を高く評価します。貴重な経験になって今後の生活に生かされることでしょう。

各専門委員長については、このあと新生徒会長が手続きを踏んで委嘱す

ることになります。

3学期から現在の生徒会から引き継いで活動を始めます。

◆生徒会長

皆さん、この度は応援ありがとうございました。選挙活動中、たくさんの人から「頑張つてね」と声をかけてもらいました。

そんな皆さんの思いを受け止め、僕は今よりもっと活気のある校中を創り上げようと思います。色々な活動を通して、よりよい桜中へ向けて、会長としての経験値を高めていきたいです。また、執行部5人で、協力して、前期よりグレードアップした生徒会にしていきたいです。その為には、皆さんの協力が必要です。一緒に活気のある校中を創りあげていきましよう。

◆副会長

僕の公約である『校中でよかった!と思える学校』に必ずしていきます。具体策である「サンキューボックス」と「サッドボックス」の設置や、他の部活1日

体験も取り入れていきます。会長をサポートし、校中を更に楽しい学校にしていきたいです。遅刻・欠席がもつたいなくなるような学校を一緒に創り上げていきましょう。校中をニューチャレンジに変えていきます。副会長に僕を選んでくださり、ありがとうございました。

◆副会長
まずは、投票ありがとうございました。皆さんの期待を胸に、生徒会活動に精進していきます。また、私には、地域に笑顔を共有できる学校として、文化的なイベントを企画するという公約があります。日々の生徒会活動に加え、公約も果たし、よりよい校中を創っていきましょう。そして、皆さんを影から支えられるような存在になり、「初志貫徹」の気持ち忘れず、頑張っていきたいと思います。

◆書記

まず、この度、私を書記に当選させていただき、ありがとうございます。大きな責任を背負うことに緊張しつつも、これから

ら学校のために活動できることへの喜びと決意の気持ちでいきたいと思います。私は、校中を誰もが楽しいと思える学校にするため、皆さんの声に耳を傾け、生徒全員で創り上げる学校づくりをしていきたいと思えます。皆さんの期待を裏切らないよう、地道な仕事から代表としての仕事まで精一杯頑張ります。

◆書記

みなさん、今回は投票ありがとうございました。皆さんの投票のおかげで当選することができました。私はこれから、演説時にお伝えしたように、クロムブックなどを使って、全校生徒の要望をアンケートで、募集していきたいと考えています。また、会長・副会長・2年書記の先輩方をサポートしていきたいから、自分も発案していけるように頑張ります。不安なこともあります。精一杯全力を尽くしていくので、どうかよろしくお願ひします。

相手を そして 自分を知る

人権週間の9日(金)、全校生徒がリモートで人権集会を実施しました。それぞれの学年の取組を発表した後、次のような人権宣言を採択しました。

- 1 いじめや差別を許しません。
- 2 自分そして相手の「良さ」を大切にします。
- 3 みんなで楽しく生活できる平等な学校を目指します。

校長講話

今日は、「障がい者についてみんなと一緒に考えてみたいと思います。」みなさんは、「障がい者とは、どのような人だと思いますか？」と尋ねられたら、どのように答えますか？

正解・不正解はありませんので、ちよつと考えてみてください。

今の質問について、ある中学校の結果を多い順番で紹介してみます。



- 1 字の読み書きや計算ができない人。
- 2 自分の思ったことを上手に話すことができない人。
- 3 身体を自由に動かすことができない人。
- 4 感情のコントロールができない人。
- 5 目や耳が不自由な人。

この中学校では、以上のような回答が多く得られています。

そのほとんどは、君たちの答えと同じだと思いましたが、障がい者という定義を福祉辞典で調べてみると、「障がい者とは、その人自身が、日常生活を送るうえで障がいがあり、何らかの補助・介助を必要とする人」と書かれています。

ここで、皆さんに考えてほしいことがあります。「みなさんは、これまで補助や介助を必要とする時期はなかったのでしょうか？みなさんは、これから先、補助や介助を必要とする時期はやってこないのでしょうか？」私を産んでくれた母は、今89歳です。今、老人ホームで暮らしています。週に一回、私は老人ホーム

を訪ね、母との会話を楽しみます。でも、耳が遠く両耳ともに補聴器をつけています。なかなかうまく会話が成り立ちません。足腰が不自由で、車椅子で移動します。トイレや風呂も一人では入れません。だからいろんな方の力を借りながら生きています。生きてくれています。

君たちが生まれたばかりの赤ちゃんの頃、思い通りに話せなくて「エーン、エーン」と泣くばかりだったはずですが、そんな時、お母さんや家族の人が「お腹が空いているのだから、ウーンコをして気持ち悪いのだろうか？熱があるのだろうか？」というふうに考えて、優しく手を差し伸べてくれたはずですが、だから、君たちはここにこうして生きています。仲間と楽しく勉強することがあります。

そして、50年後、60年後もちろん先生たちがもつと早く年をとるのですが、君たちが年をとった時に、耳が聞こえなくなったり、身体が思うとおりに動かなくなったりする時期がやってくるだろうと思

ます。そんな時も、君たちの子どもや家族が、きつと君たちのために何らかの補助や介助をしてくれることだろうと思えます。このように考えると、人はみんな障がいを持って生まれ、障がいを持って亡くなっていくのではないのでしょうか？

全ての人間は、補助や介助を受けたおかげで、今ここに生きています。障がい者や健常者という言葉があります。生を受けた人間は、補助や介助を受ける期間の長さや回数こそ違え、みんな同じではないか、何の変わりもないじゃないかと私は思っています。

最後に、中学生が作った詩を紹介いたします。

みなさんは、今は補助や介助が必要がない生活を送っています。今から読む詩のとおり、手を差し伸べる大人になつてくれることを願っています。

今の自分に何ができるんだろう、何かできることがあるよね、そんなことを気づき、考え、行動できる桜中生になつてほしいと思います。

ある中学生の詩

から喜ぶたい。だから、精いっぱいの手を差し伸べる。

人は、みんな障がいを持って生まれ、障がいを持って死んでいく。ただ、その長さが違うだけ！私が赤ん坊のころ、泣いている私を見て、お母さんがおっぱいを飲ませてくれた。泣いている私を見て、オムツを替えてくれた。元気の

人、障がいを持って生まれ、障がいを持って死んでいく。ただ、その長さが違うだけ！私が赤ん坊のころ、泣いている私を見て、お母さんがおっぱいを飲ませてくれた。泣いている私を見て、オムツを替えてくれた。元気の

いじめや差別のない、誰もが楽しいと思える学校づくりを進めよう。言葉を大切にし、お互いの良さを認め、励まし合える桜中生になるための人権集会になることを期待して今日の話を終わります。

左は、本校のホームページのQRコードです。本校のHPでは、学校の様子など、多くの情報を配信しています。ぜひ、アクセスしてみてください。

12/15現在でのアクセス数
22,439

